

## 広大チャリ軍団

広島大学周辺にチャリ軍団なるものが朝々出現し、大挙して広島大学にむかうという発表がなされた。今回飛翔ではこの謎のチャリ軍団を探るべく調査に出かけてみた。

AM.8:45~9:00 場所：下見の道路、広大周辺

**発見！** これがチャリ軍団だ。



おっ、チャリを2台発見！



どんどんふえていく個体数



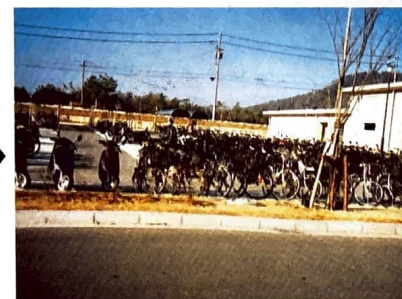
朝日をあび、白い息をはいて…



チャリ軍団の行手をはばむ者はなし



もう誰も彼らを止めることができない



待機するチャリたち

## の生態をさぐる

**チャリ軍団**について分かっていることだけ報告しておく。

個体数：不明

出現時間：1コマ目前、2コマ目前



現在のところ、以下の**3つのタイプ**が確認されている。

- 車・原付を買うまでの一時的チャリ型
  - 無公害・ダイエットのため・渋滞がなく心からチャリを愛しているチャリ愛好型
  - ただ他に手段がなく金もない永久チャリ型
- その他の報告も多数よせられている。



### 特徴

- ・夏は汗だく、冬場は着ぶくれ。
- ・変速機付きは常識。
- ・体が資本なので規則正しい生活を送っているかもしれない。
- ・田口・郷曾（キャンパスから見て南の地域）方面のチャリ軍団は技術・体力の面で最高レベルといわれている。

### 宿敵

宿敵は下見の道路における車軍団と原付軍団。車道と側道の区別がなくカーブが多いからだ。しかし彼らもチャリ軍団を極度に恐れ、今のところ平穏無事であるが、一歩間違えると事故につながる恐れもある。



車軍団と原付軍団



日々増殖していく車軍団（総合科学部駐車場）



西条駅からも通学者が続々



広大西口のバス停からも通学者が…

# 飛翔48号のもくじ

グラビア—追跡調査・広大チャリ軍団の生態を探る

目次

巻頭言にかえて—

ミスマッチを無くすには□藤井博信（就職委員会委員長） p.1

## 特集：総科就職事情

### 就職難をフッとばせ！ p.3

1. 就職活動の日記—ある女子03生の場合 p.3
2. 就職アンケート結果 p.5
3. なんで募集が少ないの—ものしり日本経済 p.9
4. 女は度胸と愛嬌で—苦戦を強いられた女子学生たち p.10
5. フローチャート—「君の進路はこれだ」 p.11
6. 大学の取り組み p.12
7. 飛翔からの提言—「社会の流れから就職難をみたら」 p.13
8. 就職活動予備軍：その心構え p.14

## 小特集：総科ごみ事情

### ごみ—身近にエコ・ライフ p.15

1. 学生に聞け—ごみ意識アンケート調査より p.15
2. 学生たちの夢のあと—ごみ実態調査 p.17
3. ごみよ、どこへ行く？—ごみ・フローチャート p.19
4. トップに聞け！& 突撃レポート p.21
5. あなたの行動が地球を救う—まともにかえて p.22

## 社会からの声 p.23

広大の門前町へ□石井泰行（東広島商工会議所会頭）

## より良い授業をめざして：総科学習事情 p.25

どうすれば学生さんに勉強していただけるか□小南思郎（物質生命科学コース教授） p.25  
いまどきの大学生？ p.27

## 総科交通事情 p.29

総合科目「交通社会論」の開講□菊池邦雄（生体行動科学コース教授） p.29  
交通安全講習会に参加して□長谷川誠之（飛翔学生編集委員） p.30

## エッセイ p.31

- 香りとの出会い□林七雄（自然環境研究コース教授） p.31  
私の社会体験的教育論□西川節行（地域文化コース講師） p.32  
入試地獄□梶山捷刀史（事務長補佐） p.33  
能の見方□中尾和江（社会科学部研究科修士課程2年） p.35  
西から東へ□牧野節子（ライプツィヒ大学在学） p.36  
ドイツで思ったこと□長澤里絵子（自然環境研究コース2年） p.37

## 研究室紹介 p.39

福岡義隆研究室 p.39  
上領達之研究室 p.40

新任教官 & 人事異動 p.41  
読者からの手紙 p.43  
編集後記 p.45

次号特集予告：総合科学部と戦後50年 p.47

編集委員募集広告 p.48  
グラビア—総科日記：秋の風景

## 巻頭言にかえて

昨今の就職困難な状況をふまえて、飛翔編集部では特集「総科就職事情」を企画した。そこでこの特集に先立って就職委員会委員長藤井博信教授に、就職問題について、重要な点を明確にするために詳しく執筆していただいた。本飛翔では藤井就職委員長の文章を巻頭言にかえ、就職をめざす学生の奮起をうながすものである。

# ミスマッチを無くすには

藤井博信 (就職委員会委員長)

就職難という言葉が聞かれ始めて早3年になる。バブル経済の崩壊に伴って1991年4月、景気は山を越え平成不況に入った。この不況は、これまで進めてきた大量生産によってコストダウンを図り

利益を追求する従来型の高度成長パターンが破綻したことを示しており、日本経済にとって大きな転換期を向かえた。企業側の業績低迷を背景に、ホワイトカラーを中心とした雇用調整や年俸制導入な

ど雇用全体をめぐる環境も大きく変容しつつある。最近、経済企画庁は景気の谷は1993年10月であったと発表した。今後、景気は徐々に回復が見込めるだろう。しかし、企業は経済が低成長時代に入った事を察知し採用に当たっては能力重視の少数精鋭主義をとっていくにちがいない。もはやかつての超売手市場という幻想は望むべくもない。企業以外でも、官公庁の定員削減、学生数の減少に伴う教員採用枠の縮小など、公務員、教員への道も厳しい。

企業が求める学生像についての最近のアンケート調査結果によると、企業が採

用の際に最も重視している事は、勉学・研究活動、学業成績など「大学で何を学び、どの程度修得しているか」である。それと同時に、「意欲」、「積極性」、「主体性」など学生のヤル気を重視しようと



とってもダンディな藤井先生

考えている。つまり、就職に際しては基礎的な事柄をしっかりと勉強しておく事が最も大切であり、地道な努力が評価される時代になったことを示している。逆に、さほど重要視しない事としては、

「即戦力となる人材の育成」、「語学力や情報処理能力を身につける事」、「協調性」さらに「自己管理能力」などが挙げられている。学生サイドからみて就職に有利であると考える条件と企業が期待する条件との間には、かなりのミスマッチが目立つ。

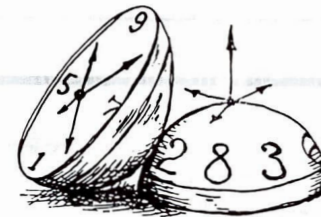
このような現実の中で、総合科学部生の過去3年間の就職状況を振り返ってみよう。平成3年度までは、就職率は97~98%で、ほぼ学生の希望どおり就職が決まっていた。しかし、平成4年度、平成5年度になると、景気低迷の影響を受け、就職率は89%、82%にまで落ち込んだ。

残念ながら、広島大学全体からみて最低の就職率であった。しかし、平成6年度に入ると就職率は10月15日現在で70%に達しており、昨年同期より5ポイント高い。これは、就職ガイダンス等を通して学生諸君の自覚が生まれ、進路選択、就職への取り組みが的確に行われ始めた事を示していると思像する。学部3年生の段階で学生諸君が自己の個性を踏まえた職業観を確立する事が極めて大切であることを示している。しかし、文系のコースにおいて、いまだに未就職者が多い点が気掛かりである。不況下においては常に文系の就職が苦戦を強いられる事は歴史が示している。しかし、厚生補導係には、いまでも大企業とは言えないまでも将来性のある優良企業からの就職依頼が届いている。わざわざ総合科学部まで足を運んでくれる企業も多々ある。しかし、

文系の学生の多くはその事実を知らない。就職を希望する学生のブランド志向が企業の要求と完全にミスマッチを起している。ぜひとも、ミスマッチを無くすため、文系学生に対するきめ細かな就職指導体制の確立を検討しなくてはならない時期にきている。

就職委員会は、新しい取り組みとして、コース単位で3年次生に対して面接などきめ細かな進路指導・進路調査を開始した。その調査結果を基に、来年度の就職先の開拓を目指して企業訪問を開始する。今後は、ミスマッチのないよう学生諸君の希望の多い企業への働き掛けを積極的に進めたい。

総合科学部生諸君は基礎となる学問をしっかりと身につけ、自信を持って来るべき就職戦線にそなえてもらいたい。



## — 「飛翔」から —

兵庫県南部地震で被災された方にお見舞い申し上げます

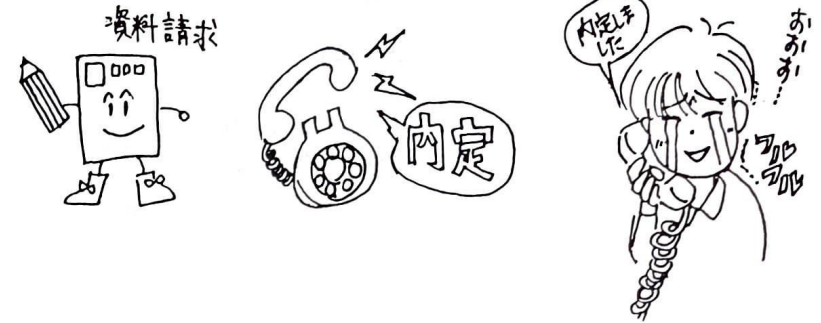
今年1月17日未明に発生した兵庫県南部地震において、ご家族が被災された学生が少なからずいました。ご家族に対しお見舞い申し上げますとともに、学生もいち早く元気を取り戻してがんばってください。

特集 総科就職事情

# 就職難をブツとばせ!

## 1. 就職活動の日記—ある女子03生の場合

<p><b>4月</b> 4/9 資料収集開始 4/15 資料請求ハガキを出す 就職ガイダンス*</p>	<p><b>5月</b> 資料が送られてくるようになる 5/9 総科のガイダンス 6社のセミナー*2出席</p>	<p><b>6月</b> セミナー面接 下旬 最終面接*3 6/30 内定らしきもの*1</p>
--	--	--



<p><b>7月</b> N社説明会*5 上旬~下旬 二次試験・面接</p>	<p><b>8月</b> 8/1 入社後説明会 (内定拘束*6) 8/2 N社面接 K大事務職・面接</p>
--	--

### 用語解説

**\*1 就職ガイダンスって何?**

4月15日に広島市内の企業が60~70社集まり、採用担当者による会社説明が行われた。

**\*2 セミナーって何?**

会社紹介が主な内容。しかし各社ごとでその実態はかなり異なっている。事実上の一次試験としているところもあるので要注意!

〈各社のセミナー内容〉

<p>〈N社(5/7)〉 電話予約と参加費が必要 ・会社説明 ・小論文添削</p>	<p>〈K社〉 ①5/17会社説明 ②6/6面接・作文</p>	<p>〈D社(5/24)〉 ・筆記試験(国・数・英) ・一次面接 志望動機を聞かれる (いわゆるセミナー選考)</p>	<p>〈L社〉 ①5/7会社説明 ②5/31筆記試験 ③6/3面接と筆記試験(国・数)</p>	<p>〈G社(5/26)〉 ・面接 ・一次試験 (商品のイメージなどの独創性を試すテスト)</p>
---	---	---	---	---

**\*3 面接ってどんなの?**

- ・一次面接では志望動機などを訊かれることが多い。
- ・最終面接は会社によって個性があるため、ひとまとめにして語れない。

- 例1) この会社のために何をしてくれるかを答えさせる。
- 例2) 「良き企業市民としての役割」のテーマで集団討議をし、そのあと個人面接。

- \*4 これは内内定であって、フォーマルなものではない。
- \*5 実質的な選考は終わっていた。これに参加しても手遅れなので要注意。
- \*6 内定者を集め、研修などの名目で拘束(他社への流出を防ぐため。正式内定は10月1日)。

~~~~~ 本人からのメッセージ ~~~~~



前期はほとんど授業を休むハメになるので単位は3年のうちに揃えておくべし。手間取ると卒論にひびくよ。交通費も結構かかるので要注意。こういうことを後輩のみんなに伝えてあげたいと思っていたところなのよ。

## 2. 学生からの生々しい声

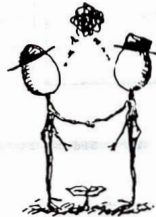
### 就職アンケート結果

前ページで、おおまかな就職活動のスケジュールが分かっただろうか。これはほんの一例であり、その他もっと早くから始めた人、遅くから始めた人、1社にしぼった人といろいろな場合がある。そこで総合科学部の就職希望者からアンケートを集め、今年就職活動でどういう扱いを受けたか、またどういう感想をもったかを調べてみた。

なお、回答されたのは27部（外語6、社会学1、地文1、数理4、自然11、生体4）であった。地域文化コースについては、アンケートを行ったのが卒論の中間発表後であったこと、他のコースの学生もこの時期はあまり大学に来ないため、データ数が少なくなりました。

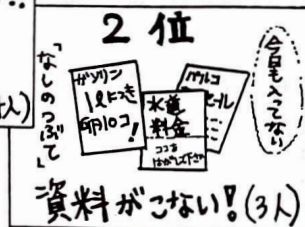
**Q** 女性の方に特にお聞きします。女性だからということで不利な扱いを受けたことがありますか？あれば具体的に聞かせ下さい。

○不利な扱いを受けた事が…



○その不利な扱いとは！？

- 1位：「会社訪問に行ったら、電話で受け付けをしてもらったにもかかわらず、『大学女子は採用しない』と言われた。」(外国語コース)  
 「興味ある会社で、四年制大学女子は採用しないと言われた。」(数理情報科学コース)



〈3位以下の意見〉

- ・男性の方が早く選考が行われていたりする。
- ・情報を教えてくれない。
- ・女子は自宅通勤しか認めてもらえない。
- ・月給が男性と比較すると少ない。

**Q** わざと意地悪な質問をして学生の反応を見る「圧迫質問」が問題になっていますが、実際に経験したことはありますか？あれば具体的に聞かせください。

「結婚後仕事と家庭はどうしますか？うちは結婚したらやめる人がほとんどなんですよ。」(女・自然環境研究コース)

「彼はいますか？」(女・外国語コース)、「特定の男性とつきあっていますか？」(女・生体行動科学コース)

「あなた一人を女子総合職でとった場合、一般職の女子社員と問題が生じると思いませんか？それにあなたはどうか対処しますか？」、「秘書をやれといたらどうする？」(女・外国語コース)



その他

「こちらに言いたい事を言わせてあとからけちをつけてくる質問をされた。」(男・生体行動コース)

「答を根本から否定された。いきなり履歴書について文句を言われた。」(男・社会科学コース)

コメント

「笑顔で切り返したら採用された。」「そんなに不快でなかった。」という意見もありましたが、なかには常識で考えられないような、プライバシーに関する質問もあり驚きます。

### 飛翔・豆データ

アンケートのはじめに就職活動の時期や資料請求の数、内定数などを尋ねたが、その結果を下にまとめておきます。就職活動の時期は下の通りで、2～4月に始める人が多いようです。中には93年の年明けから始めた人も数名います。総科生は活動時期が遅いといわれますが、田舎の西条に移って情報に疎くなり、さらに時期が遅くならないように…。

次に会社訪問の数は女性が多いにもかかわらず、内定数は男性の方が多いです。最後に男女別の資料請求数などについて質問したところ、やはり返却率に男女差が歴然と現れました。単にこれだけでも男女で機会均等が実現されていないことは明らかです。また、女性の資料請求数の多さが雇用に対する不安感を象徴しています。

母集団（就職希望者121人）に比べ標本の数（20数人）と少ないため信頼性に欠けますが、男女差別があることは否めないようです。

| 就職活動開始時期 | 人数 |
|----------|----|
| 1993年12月 | 1  |
| 1994年1月  | 1  |
| 2月       | 4  |
| 3月       | 7  |
| 4月       | 4  |
| 5月       | 2  |
| 6月       | 1  |
| 7月       | 1  |

|   | 会社訪問  | 内定    |       |
|---|-------|-------|-------|
| 男 | 6.6社  | 2.1社  |       |
| 女 | 11.3社 | 1.7社  |       |
|   | 資料請求  | 資料返却  | 返却率   |
| 男 | 62.4社 | 39.1社 | 69.4% |
| 女 | 88.4社 | 46.6社 | 51.9% |



Q 4年生としての大学生活が阻害されているという事はありますか？あれば具体的に聞かせ下さい。

# 卒論が書けな~い!

- 「卒論の準備が全くできない。集中できない。」(自然環境研究コース)
- 「コンスタントに授業にでるのが難しい。」(外国語コース)
- 「地元就職だったので移動に時間とお金がかかりすぎて大変だった。」(生体行動科学コース)
- 「4~6月頃はセミナー出席や試験、面接なのでゼミをかなり欠席してしまった。また精神的にも疲れて卒論にはほとんど手つかずでした。」(数理情報科学コース)
- 「資格は早いうちにとっておかなくては変です。」(生体行動科学コース)
- 「民間の就職と公務員試験を両方やっていたので大学での勉強(卒論など)はほとんどできませんでした。」(外国語コース)
- 「実験や勉強ができなくて困る。」(自然環境研究コース)
- 「楽しみながら両立しました。」(自然環境研究コース)
- 「時間の使い方をかなり工夫しなくてはいけないと思う。」(社会科学コース)
- 「就職活動も大学生活の一部だ。」(数理情報科学コース)

Q その他、就職活動で苦労していること、腹の立つこと、困っていることはありますか？ 自分のことでも、他人のことでも結構です。

1位：「会社が交通費を支給してくれない。」(生体行動科学コース)、「自分の趣味じゃないスーツを買うのもイヤ」(自然環境研究コース)、「毎週姫路と広島を往復した。」(自然環境研究コース)

2位：「面接官が『こっちは雇ってやるのだから』とふんぞりかえっている。」(生体行動科学コース)、「まず出身地を訊かれ、実家に帰らないのかと訊かれる。」(生体行動科学コース)、「はじめから女子はいらないと言わんばかりのところがあった。」(自然環境研究コース)

3位：「明らかに前から内定者は決まっいて、形だけのセミナーがあった。」(社会科学コース)、「採る気がないのに試験を行う。」(外国語コース)

(3位以下の意見)

- 「企業の人事の方で、その気にさせるような言い方をされる方がいるのでやめてほしい。」(生体科学コース)
- 「総科出身ということで、つぶしが利かない。知名度がない。」(自然環境研究コース)
- 「『成績があまり良くありませんね』と言われ、返事に困ることが何度かあった。」(数理情報科学コース)
- 「理系就職は工学部に有利で、総科では不利。」(数理情報科学コース)
- 「大学側の就職関係資料があまり充実していない。」(外国語コース)
- 「求人数が非常に少なくなっていた点が一番苦労した。」(数理情報科学コース)

Q 就職活動をしている学生として、企業や政府に提言するとしたら、どんなことを言いたいですか？

1位：「女子を採らんなら採らん、要らんなら要らんとはっきり言え。採る気ないくせに採るようなことを言われることほど、無駄なものはない。」(自然環境研究コース)

2位：「採用状況(男女の人数、コネ採用など)をもっと明確にしてほしい。」(外国語コース)「『水面下の動き』とかいって、どういう採用スケジュールになっているのか、不透明な部分が多すぎる。」(生体行動科学コース)

3位：「広大総科の就職課はやり方がなにか中途半端。募集が締め切られている会社はさっさと消してほしい。」(外国語コース)

「学部生でも技術職で採ってほしい。ちゃんと勉強している人もいるのだから」(生体行動科学コース)

「企業は自分勝手、えらそーにしている。欧米のように、女性が働きやすい環境を制度的につくるべき。」(生体行動科学コース)

「セミナーで、いきなり面接・試験というのは困りました。」(数理情報科学コース)

コメント：実は、総科の事務棟1階厚生指導係に就職コーナーというのがあり、就職関連の雑誌、アンケートが置いてあります。

## 男女雇用機会均等法について

ところで、男女雇用機会均等法という法律があるのをご存じだろう。これは「女性差別撤廃条約」や「国連婦人10年最終年会議」などの世界的な流れの中で1985年成立した。しかしいわゆる保護抜き「平等」=母性保護の規定を緩め、世界的にも過酷な「男並み」労働を強いるものであり、募集・採用・配置・昇進は努力義務、教育訓練・福利厚生・解雇などの差別的行為は禁止とされているが、いずれも罰則がなく「ざる法」といわれている。利益優先を遂行する企業の行動を是正するのは一企業がどうこうしてできるものではない。そんな中で「男女雇用機会均等法」を罰則化し効力を高めることでその効果を期待する声も多い。

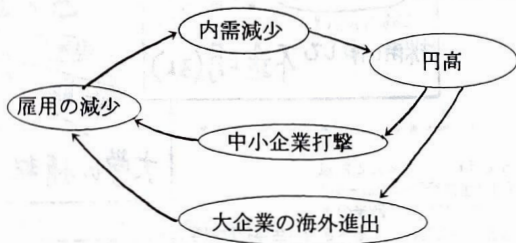
### 3. なぜ募集が少ないの？—ものしり日本経済

#### ●今回の不況の特徴は？

以下の①②のような循環的な要因だけでなく③のような構造的要因もある。

- ①GNPの60%を占める個人消費が低迷している。その原因は大企業を中心とするリストラ（事業の再構築）による首切り、合理化など労働者の実質賃金の低下などによる。
- ②民間企業の投資が大幅に低下している。その原因は大企業経営者がバブル時にタダ同然のカネを手に入れて将来の見通しもなく、無定見な設備投資に走ったことなどによる。
- ③輸出依存が深化していること。これによる大幅な貿易収支黒字はアメリカの外圧などを通じて円高を引き起こす原因となり、さらに大企業の海外進出を促し、空洞化現象の生じる恐れもあり、中小企業には壊滅的打撃を与えている。

#### ●日本経済の悪循環



上の図は日本経済の悪循環を示したものである。高物価、消費税や不況を口実にした首切りなどにより内需が減少すれば大企業は市場を海外に求めざるを得なくなり、それが貿易収支黒字を生み出す。この日本の大幅黒字は円高につながるので、日本の輸出企業は東・東南アジアの安い労働力を求めて海外進出する。また円高は低価格な商品の国内流入を引き起こすので中小企業は打撃を受ける。こうした日本企業への影響は国内の雇用減少を結果するのである。またそのことが内需減少の原因になっていくところから、日本経済は悪循環に陥っているといえる。

#### ●雇用慣行の変化

企業の売り上げが減少したため人件費などの固定費が増大し、利益は4年連続で前年に比べて減少した。企業の利益水準を過去の平均的水準に保とうとすると、余剰人員は全企業で200万人に及ぶと試算される（92年度ベース）。そこで中高年やホワイトカラーの雇用調整が進められ、終身雇用制度が崩壊し始めた。

終身雇用制度は新卒者を毎年確保することで成り立っているため、この制度が崩壊すれば新卒採用のかわりに、中途採用などが増えるだろう。

また世界の先進諸国は欧州では10%を超える失業率であり、米国でも景気回復下で6%の失業率である。しかし、日本は3%程度の失業率にとどまっている一方、貿易黒字を出しており、失業を輸出していると非難される。欧州基準の時間短縮や休暇の増加など同様の条件で競争することが求められている。

### 4. 女は度胸と愛嬌で—苦戦を強いられた女子学生たち

猛暑のなか、リクルートスーツを着た女子学生が真剣な顔で都庁前をデモする……そんな光景が全国・世界に報道された。93年度の求人倍率が0.87%。とうとう1割をわった。95年度新卒女子学生の採用なしを決定する企業が続々とあらわれる。94年度の新卒学生の就職浪人が15万人、うち女子学生は7万人。そんな中でとうとう女子学生が立ち上がった。「泣き寝入りしない女子学生の会」誕生である。そしてこれは決してひと事ではないのである。



広大総科の4年生に就職に関するアンケートを実施した。返却数はあまりにも少なかったが、内容は密度の濃い驚くべきものであった。「女性の方にお聞きます。女性だからと言うことで不利な扱いを受けたことがありますか？あれば具体的にお聞かせ下さい。」というアンケートの項目に対して、不利な扱いを受けた人は73%。実際アンケートには4年生の女子学生の怒りとも懇願ともつかない声がよせられていた。

では、どうして「女」ということでこんな目にあうのだろうか。「女はすぐ辞めるから」とはよく聞く言葉である。確かに女性の就業年数は平均7、8年であり、結婚・育児によって会社を退職している。これに対して反論したい。もちろん就職を腰掛け程度に考えている人もいるだろう。しかし今回、就職難で真剣に怒

り、不安を覚えている人は本当に働きたい女子学生である。それに結婚、出産してから働きたい女性もいっぱいいるが、今の企業では難しいので実現しないという人も多い。アンケート結果の中に「せめて女性に対してバックアップする制度を欧米並みに」という声があったのを思い出す。もし女性が会社を続けていこうとしたら母性保護や女性への優遇措置など（産休・育休など）を捨てて男性並みに働かなくてはならない。そして今の日本の社会の男性並みとは、会社に囲われ家庭をかえりみずひたすら働き続ける働き蜂といった実態だ。

今回の不況で弱いものが切り捨てられてきた。まず外国人労働者、そして女子学生。そしてこの次は？と考えていくと利益を一番に優先させる今の世の中の非情さが感じられる。これは女子学生だけの

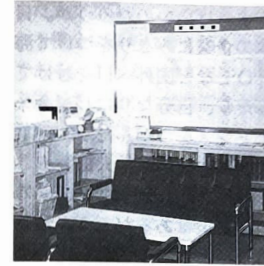
問題ではない。不況になると女子を切り捨てる企業が男をどう働かせようとしているのか、その迷惑を考えると空恐ろしい。

女子学生の叫びに行政も重い腰を上げ始めた1994年6月労働省婦人少年室が全国に相談窓口を開設し、政府が「女子学生の就職問題に関する閣僚会議の会合」を開く。8月27日労相と「泣き寝入りしない女子学生の会」と直接交渉の末「差別実態調査をする」と約束をとりつける。9月6日労働省が、262件の企業に差別をやめるよう個別指導し、12月25日政府が95年度予算案に「女子学生の均等な就職機会確保対策の実施」を盛り込み、女子学生差別の実態調査を行う。

昨年11月14日文部省が女子学生の就職内定率を発表、その数は61.5%である。

### 6. 大学の取り組み

厚生補導係の“就職コーナー”へ行こう！



事務棟1階の厚生補導係に就職コーナーがあります。企業からの求人票、会社の資料、各都道府県の公務員情報などがあります。ところが意外と利用されていないのがこのコーナー。(確かに)厚生補導係の奥深い場所にあり、少し入りにくいし、知名度が低いのが原因らしい。厚生補導係が厳しい就職戦線に備え大学生へ少しでも資料を提供したいと資料収集をしています。ぜひ参考にして就職活動を効率よくすすめましょう。就職関連のデータも分かる範囲で提供します。係の方も「もっと利用してほしい」とのことです。



豊富な資料がそろっています



パソコンでも資料がみれる



いろんな企業からの募集がある

#### 就職委員会

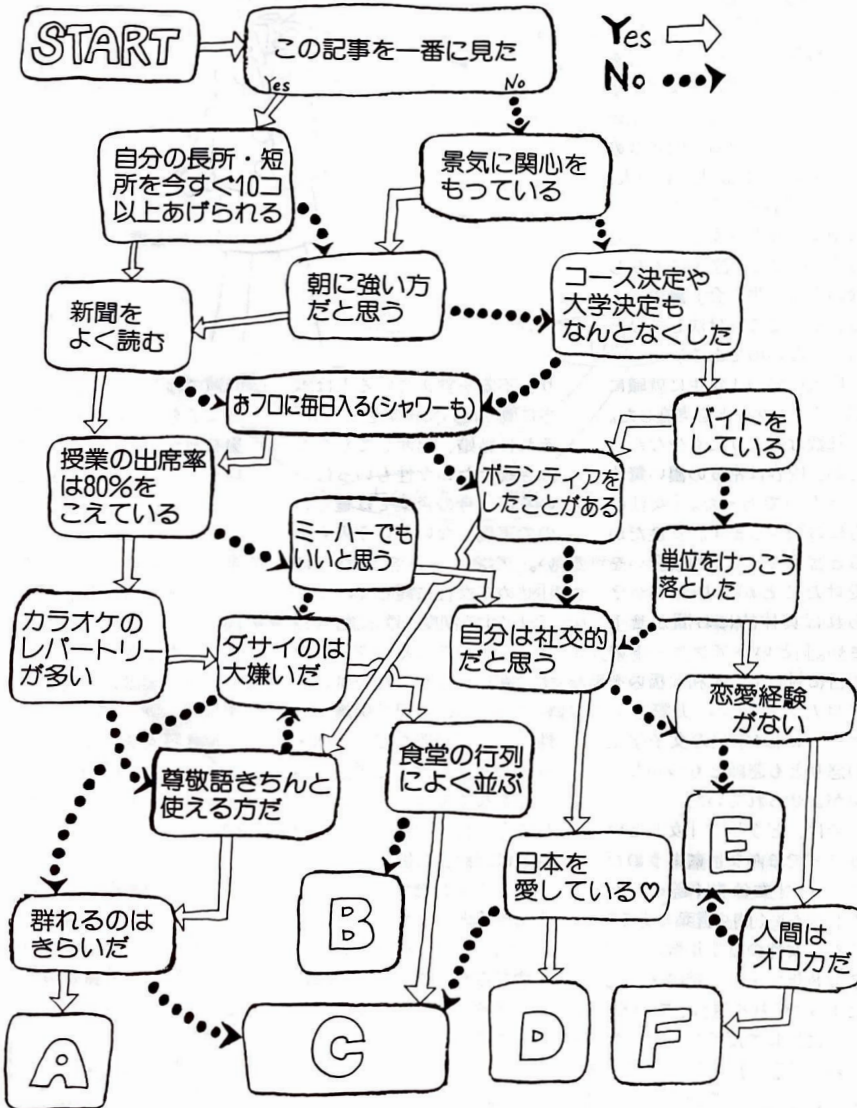
総合科学部に就職委員会が存在する。「就職ガイダンス」を開催したり、学生から早期に希望職種、希望企業のアンケートを採り効率のよい就職活動のサポートをめざしている。しかし、公務員などの情報は、学生同士のつながり、縦のつながりが重要視されるので自主的にグループなどをつくり勉強会などを実施するのをおすすめしたい、ということです。

#### 就職フローチャートの結末

|                                                                                  |                                                                                                     |                                                                                            |
|----------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p><b>A 研究者タイプ</b><br/>あなたは、物事を極めることに生きがいを見いだすタイプです。知的好奇心が満たされるその日まで邁進して下さい。</p> | <p><b>B 自立個性派タイプ</b><br/>あなたは、人に指図されるのが嫌いで、しかもトレンドに敏感。自分で事業を興したり、情報関係の仕事をするのが成功のカギ。</p>             | <p><b>C カメレオン保護色タイプ</b><br/>あなたは、順応性が高い反面、没个性的になりがち。仕事を片づける能力はあるので「一般企業への職」の道が君を待っている。</p> |
| <p><b>D 公務員タイプ</b><br/>あなたは、安定性ある公務員にかなり惹かれているはず。しつかり、勉強してめざせ難関突破！</p>           | <p><b>E ふわふわクラゲタイプ</b><br/>人生設計がイマイチ欠けているあなたはフリーターやブータロ-に落ちついてしまうかもしれない。そんなあなたにイエロ-ブックをおすすめします。</p> | <p><b>F 仙人タイプ</b><br/>俗世間から離れたらと思ったことは1度や2度ではないはず。今すぐがら山にこもって仙人の修行に励んで下さい。桃源郷が見つかるかも。</p>  |

### 5. 「君の進路はこれだ」-飛翔特製フローチャート

「大学を卒業すれば就職」と思いこんでいるその君。良く考えれば君の進む道はたくさんある。このページが君の進路決定に役立てば幸いだ。しかし、鵜呑みにして将来の生計が成り立たなくても編集部は何の責任も負わない。





## 7. 飛翔からの提言 「社会の流れから就職難をみたら」



アンケートの結果や総科の就職に関するデータをみてみなさんどういった感想をもったのだろうか。「えっ!?!、こんなに就職率が悪い?」とか「全国の女子の就職内定者数が男子の半分にくらべると、総科は女子の方が上まわっている」などなど。女子学生の就職難に関しては先ほどのべたのでここではふれないが、この就職難の中いろいろな困難にあいながらも自分の夢を実現させるため、生活手段を得るためにがんばって活動している先輩の姿が目につく。今回の取材を通じて就職活動の際、セミナーがいきなり1次選考であったなど、就職協定上あってはならない事実が存在することも分かった。そういう情報も学生のネットワークでつかんでいこう。使いこなすことが必要ではないだろうか。

しかしながら、今回特に気になったことは翻弄される学生の姿である。アンケートの中でも特に女子学生に関しては人権無視の面接、不透明な採用基準、実験系学生にとっ

ては両立が難しい就職活動、あと形だけのセミナー(女子募集はしないのに)、あと氾濫する就職情報の中で、個人個人が競争をしいられる現実。これらの根底にあるものはなんだろうか? まず、学生は大企業へのブランド志向がよく指摘される。なんとなくイメージで「こういうことができそう」と中小企業を範疇にいれず、最初から大企業だけを見るなど。確かにそういう面はあるかもしれない。しかし、その一番の原因は生活手段の安定を求めているのではないだろうか? それを無責任に否定することは誰にもできないと思う。

という、やはり原因となるものは、学生に魅力ある企業、つまり大企業が採用枠を減らしたこと、そして、日本の産業界全体が雇用数を制限したことではないだろうか。そして、資本主義社会における労働者の立場の弱さが、今、如実にあらわれているのではないだろうか。

では、私たちは今の社会の中で翻弄されないためにはど

うすればいいのだろうか。日本の企業にみきりをつけて海外OLなど国外へ目をむけてみたり、自分なりにビジネスチャンスをつかんだり、就職活動に力をいれ他人に勝つことで生き残ったりなど、いろいろ方策はあるだろう。私たち飛翔として、提言したいのは、「大きな社会の流れからこの現実をとらえてほしい」、ということだ。

まず、なぜ採用枠が減少したかの原因を知ること。それは前ページに説明が書いてあるので、そのへんを参考にしてほしい。そして次に、原因に対して疑問をもってほしい。私なら、企業の利益追求もいかにそれによって人間1人1人の価値が簡単に否定されてよいのだろうか、としてみよう。(だって就職することはこの社会において生活するためには不可欠だから)

そして、疑問に対する自分なりの答えを見つけてほしい。その手段としては社会を科学的にみたり、読書をしてみたり、いろんな人から話を聞いてみたり、とかあるだろう。

実際、就職活動を始めたら時間も余裕もなくなって、大きな流れにのみこまれてしまう。その前に、時間がたっぷりある人はぜひ、就職活動の前に、就職難をただ受け入れるのではなく、社会の流れの中の自分を見つめてほしい。

(学生編集委員: 田中裕子)

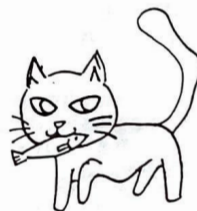
## 8. 就職活動予備軍: その心構え

喜々津祐子 (外国語コース3年)

12月16日、いよいよ就職ガイダンスが始まった。まだまだ就職のことなど考えたくなかったが、これを機会に真剣に考え始めなければならないようである。これまで約2年半、のんびりと学生生活を送ってきたが、就職活動を始めようと思ったらそんな調子ではいけないのだろう。この就職ガイダンスで、「就職は早い者勝ちだ。」と聞いたし、そんなに厳しい状況で一体私はどこに就職すればよいのだろう、と一瞬考えてしまったのは私だけではないと思う。

今の状況では、就職は「戦争」なのだろう。これでは、高校の時と変わらない。せっかく、受験戦争から開放されたのに、今度はそれよりもっと厳しい就職戦争が待ち受けているなんて嫌になってしまう。それでは、一体この戦争に勝ち抜くためにはどうすればよいのだろうか。もちろん、勉強ができるだけではいけないだろう。行動力もなくてはならないし、体力もなくてはならない。そして、賢くなければならない。

今のところ、まだ女子の就職は非常に難しいといわれているが、景気の回復なんて待ってられないし、かといって諦める訳にもいかない。そこで、私はせいぜい体力と気力をフルに活用してこの戦争に勝ち抜いてみようと思う。ガイダンスの話の中で、「他人をどんどん出し抜いて下さい。」とおっしゃっていたが、「出し抜く」という言葉は良くないが、私にとっては「賢く他人に勝つ」ことが出し抜くことだと思う。この戦争は社会に出るための試練の一つだと思って、これからの数カ月、秘密裏に作戦を練っていかうと考えている今日この頃である。



佐伯なおみ (自然環境研究コース3年)

12月26日、企業就職ガイダンスに行った。これ以前にも、いくつか就職ガイダンスはあったが、授業があったし、私は今のところ院への進学が第一志望なので行ったことがなく、今日が初めてだった。大講義室に行くとしてすでに人で一杯だった。リクルート社の人が、現在の就職状況、求人状況や、先輩の成功例などを話された。来年の一人当たりの求人している企業数は、大卒男子が1.43社、大卒女子は0.61社。これに今年就職できなかった人が加わるので、実際はもっと厳しくなる。今年の就職率は、女子はやはり6割くらいだそうだ。この日ガイダンスに来ていた人の半分くらいは女の子だったが、そのうちの4割くらいは来年の今頃までに就職が見つかっていないということだ。今まで、就職は厳しいということを聞いても、実感はなかったが本当にシャレにならないと思った。公務員は広島地方上級が17.4倍、大阪が23.2倍。公務員は企業より厳しくないだろうと思っていたので、この倍率には驚いた。

資料請求や、履歴書の上書き方の話をされた。常識を持って相手が興味を持ってくれるようなわかりやすい書き方をしたらよいということだった。しかし、どこの大学でも同じようなガイダンスがあるのだから、みんな似たり寄ったりになるのじゃないだろうか。できるだけ目立った方がよいなら、これにもっと工夫がいると思う。総科は、工学部とかとは違って、自分で就職活動をしないと行けない。面接は短時間でうまく自分をアピールしないと行けない。大変だ。今は景気が上向きになってきたといわれているけど、それが採用に反映するのは、数年後だということ、とにかくあと何年かはまだまだ就職は厳しいようである。



就職ガイダンスの風景